

## 『学生と地域でワクワクをつくるワークショップ R1』 実施報告書

報告：植木 一範（NBC，明倫短大）

### 1. 実施概要

日時：令和元年 9 月 20 日 16:30～19:00、懇親会 19:00～20:00

会場：明倫短期大学 講堂（懇親会は隣の講堂）

参加者：55 名（学生：10 名（18～32 歳）、地域の方：25 名、NBC 関係：11 名、教職員：9 名）

主催者：新潟ニュービジネス協議会起業家支援委員会、明倫短期大学

共催：真砂小学校区コミュニティー協議会

新潟市異業種交流研究会協同組合新潟西海岸リゾート研究会

### 2. 実施目標

地域の魅力について考えた前回の結果を踏まえ、地域の魅力を向上し、地域活性や新事業につながるアイデアを学生が地域と共に考えるワークショップを実施する。学生サークル等が地域と共に具体的な実施に繋がられるよう検討する。

### 3. 実施内容

第 1 部 ミニセミナー（昨年の復習と他の事例紹介等）

第 2 部 グループワーク（テーマ：地域のワクワクとは？）

第 3 部 グループワークのまとめ発表

第 4 部 ミニシンポジウム～それぞれの立場からの総括～

#### ～各セッションの概要～

##### 1) ミニセミナー

- ・地域が学生を育て、学生が地域を元気にする
- ・ワクワクする地域の創出を考えてみよう
- ・地域のための明倫短期大学、地域連携活動、学生ボランティア活動
- ・平成 30 年実施、第一回学生と地域 WS を振り返って

##### 2) 小グループによるワークショップ（8～9 名グループ×6）

- ① グループは、学生、地域、NBC 等の立場の違う者を組み合わせて行った
- ② ワークショップの最初に、グループ内で、自己紹介を行った（約 10 分）。
- ③ 次いで、グループワークを開始し、ブレインストーミングにより、意見を抽出した。
- ④ ワクワクする事項は何か、予算や人手を考慮しないで意見抽出した。さらに現実的に無くて困っている問題は何かを意見抽出した。
- ⑤ グループ内の進行（ファシリテーション）は NBC 委員を中心に行った。書記と発表者をグループ内で選出した。
- ⑥ 模造紙に、付箋を貼り、抽出意見の空間配置を行い、それぞれの関連、新規性、実現可能性について検討した。



### 3) グループからの意見抽出結果の発表内容

#### ①グループ A (明倫夕日テラス、天然温泉潮風)

- ・明倫短期大学の敷地や施設の活用。  
テラスでビアガーデンや音楽ライブを行い、人が集まる地域にする
- ・歯科の知識を活かして、口腔内の悩みの少ない地域にする。
- ・地域での祭やイベントを開催する。プロ野球を開催する。
- ・コミュニケーションが取りやすい地域にしたい。

ネガティブ) 知名度が低い、学生数が少ない

#### ②グループ B (ドキワクの地域作り)

- ・地域の魅力作り→ハード面 (テーマパーク, 温泉, 運動する場, 公園, 花火大会。) →ソフト面。地域連携: 地域と学生でコラボレーション。結婚式や葬式のプロデュース。居場所の確保。お友達のできる街作り。カフェテリア。人のつながり。
- ネガティブ) 交通が不便。車以外が利用しにくい。大雪の時どうするか。

#### ③グループ C (老若男女で楽しむ街作り。ハッピーライフ。)

- ・(施設) 図書館, スーパー, カフェテリア (交流) 運動会の実施 (イベント) 小針浜の活用
- ・電子マネー等 IT の利用法などの公開講座を行い、IT に強い地域をつくる。

ネガティブ) スーパー, カフェテリアがない。若い人が少ない。地域の担い手がない。坂が多い。

#### ④グループ D (みんなでワクワクする地域)

- ・図書館に専門書以外も多く置いて、地域の人もくつろいで利用できるようにする。  
明倫内にカフェがあるといい。
- ・地域の中で、不要品を共有できるコミュニティーをつくる
- ・健康ランドがあったら良い。カジノ、ゴルフ場。祭りの開催。
- ・地下鉄やモノレール。道路エスカレーター。坂道や雪道に強い地域。交通網を整備する。
- ・災害時の避難経路を学生と地域と考え、確立する。

#### ⑤グループ E (支え合いでワクワクする地域)

- ・夕日を見ながら入れる温泉を作りたい。
- ・保安林を活用して、憩いの場所を作る。
- ・高齢者にやさしい街作り。スーパーの買い出しやゴミ捨てを学生が手伝う。
- ・明倫で野菜作り。バーベキューなどの交流イベント。
- ・防災訓練を共同で行う。

#### ⑥グループ F (食う歩く元気な地域)

- ・ディズニーをつくる。海岸の遊園地。

- ・世代間交流 たまり場。気軽に集まれる場所の確保。
- ・道幅が狭い。地域スーパーの不足。
- ・美味しいご飯屋さんのマップが欲しい。
- ・地域カフェ。学食の活用。こども食堂。高齢者の集える食堂。
- ・運動が出来る場所。保安林、ウォーキングの会。



#### 4) ミニシンポジウム

##### ①飛田滋氏（明倫短大）

- ・地域との関わりで、学生も地域も活性化していくと良いと思う。

##### ②加野麻理子氏（西社協）

- ・カフェテリア、学食の活用が出来ると地域コミュニティにとって非常に良いと思う。
- ・大雪などの際の助け合いができるように学生と地域の関わりができると良いと思う。
- ・SNSの活用。学生の企画力をもっと引き出せたら良いと思う。
- ・社協では、ボランティアのマッチングも行っている。

##### ③笠原一信氏（コミ協）

- ・防砂林や施設の活用。食堂の活用も可能性がある。情報共有ができることがまず良かった。

##### ④吉崎陽介氏（明倫学生）

- ・学生が地域と話す機会があることが非常に良かった。
- ・西区が好きである。地域愛ができる地域になっていくと良いと思う。

##### ⑤渡邊信子氏（NBC）

- ・収入を増やすか、経費を減らすか。地域に眠れる資源を掘り出す活動が大事である。
- ・学食も地域にただ開放するだけでなく、企画する。

- ・家庭菜園などで地域と一緒に事業をする。
- ・やってみたい。楽しい企画が大事。みんなで考えると化学反応で良いアイデアが出る。
- ・このような活発に話し合うような機会が非常に大事。

⑥小林富喜子氏（NBC）

- ・皆で頭を寄せ合いワークショップの機会がとても良い。年に何回か開催できると良いと思う。

⑦小林氏（西区健康福祉課）

- ・街頭の要望が学生から出たところ、自治会ですぐに対応できるとすぐに返答が出来た。ニーズとシーズのマッチングができるところが、こういった会がすばらしいところ。
- ・当課で地域の支え合いの仕組みづくり，交流の場，地域の先進事例を活用できる。
- ・具体的な事業に発展させるところをバックアップしていくことができる。

#### 4. 今回のまとめ

昨年に引き続き二回目となる「学生と地域でワクワクをつくるワークショップ R1」を昨年以上の参加者の下で開催し、学生にとっても、地域にとっても、関係者にとっても非常に有益な時間を過ごすことができた。学生と地域の間が意見交換を行うことが、とても有意義なことであり、今後の可能性が示唆される機会となった。このような機会の設定こそ地域の魅力となり、人材が交流することで新しい事業が生まれると考えられる。

今後、地域のマップづくりなど事業化を検討し、実現に向けてプロジェクトを組んでいくこととなった（担当：植木・諸橋・原澤）。

#### 5. 次回に向けて

- ・継続開催（年1回ではなく少人数でも定期的に集まったらどうか）。
- ・地域の議員、地域企業との連携をしたらどうか。
- ・実行の事実を積み上げる。
- ・出席した学生をつないでいく。
- ・次回ワークショップは、小学校やPTA、地域教育コーディネーターにも声をかける。



ミニシンポジウムの様子



懇親会の様子